

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800089		
法人名	株式会社 芳清		
事業所名	すいせんの郷		
所在地	島根県益田市西平原町534-6		
自己評価作成日	令和元年 9月10日	評価結果市町村受理日	令和元年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32](http://index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和元年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

里山の展望が広がる集落の中に位置し広い敷地内では毎日、全員で外気浴をしながら水分補給や体操、散歩を日課に取り入れ生活リズムを整えている。洗濯、炊事、入浴、手洗い等に使用する洗剤は合成洗剤を使わず、重曹やクエン酸等、誤って口に入っても安全なものを使用している。行事には季節感を感じ楽しんで頂けるようスタッフが工夫し企画を考案している。全員で日帰り温泉3回/年と入居者の誕生日には個々の担当が寄り添って希望の馴染みの場所への外出、外食は定着している。近隣の介護福祉事業所との交流、地元住民の避難訓練への参加等、地域の協力を得ている。外部講師を招いて全員参加での研修を行い、介護実践に活かし資質向上に役立っている。人生経験豊富な職員で入居者様の不安や心配事に寄り添い、安心安全な生活の提供のため日々の情報伝達や状況を把握して適時適切なケアの提供に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者の状況や要望、不安に応じた声かけや対応などを工夫して支援し、住み慣れた地域で馴染みの人達との関係を継続し安心して暮らせるように取り組んでいる。運営推進会議では委員から積極的な意見や提案があり、地域の人の協力を得て道路整備を行って貰った。他の介護事業所の車を借りたり、防災訓練には地域の人や会社、駐在所の人にも参加して貰うなど協力を得ている。職員は事業所内・外の研修に参加しスキルアップや業務改善につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った行動指針を掲示し、新入職員には配布して周知するほか、職員会議や研修の場で全員で唱和し振り返り、実践へつなげている。	理念に基づいた行動指針を掲示したり毎月職員会議で利用者への関わり方や言葉かけを振り返り、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民からの花や野菜を頂いたり近隣の介護事業所との交流、近隣の子供たちが来訪し交流したり、毎年、みんなで千羽鶴を折り、8月に広島へ送ってもらっている。	地域行事への参加や自治会、近隣住民、小中学生などとの交流が増えている。毎日散歩に出かけ挨拶を交わしたり、野菜などの差し入れがあり地域との付き合いを大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	馴染の美容室への外出や地域行事の参加や出品物の販売を通じて自然にさりげなく発信している。また毎年、地域の中学生の職場体験で交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議では近隣住民、自治会役員、近所の介護福祉施設の代表の方の参加があり日ごろの細かな施設の状況報告の際に地域の情報や意見を聞いている。	参加者が自由に意見を述べられる様な雰囲気作りを心がけ、職員の研修や防災訓練等多彩な内容で話し合い、助言や活動の評価を得てサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	隔月の運営推進会議の開催時に保険者である益田市高齢者福祉課の担当者に毎回、参加いただき、運営状況報告と行政からの情報や意見をいただいている。	日頃から情報交換や相談を行い、助言や情報提供を受け協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化のための指針を作成し全職員に配布している。 3つのロック(スピーチ・フジナル・ドラッグ)に関するケアについても会議等で個別事例検討を行っている	事業所内・外での身体拘束や虐待防止の研修に参加して理解を深めている。振り返りノートに一人ひとり感想を書き留め、職員会議で話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連の研修に参加し伝達講習や定期的な虐待防止自己点検シートやアンケートの実施を行い習熟度の把握や結果に沿って職員会議の場で検討。行動指針にも明記している。職員のメンタルヘルスに関する研修も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	適宜、包括支援センターに相談している。入居者の中に成年後見制度を利用継続中の方がおられ定期的な後見人の面会の際に話を聞いたりしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の見学の際に説明、また入退去時には直接または、電話等での意見や質問にも対応し必要なことは繰り返し説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会には事前のアンケートでの意見聴取や面会時に書いて頂く様式を作って記入いただいている。また意見箱の設置、また契約時の書類に苦情申し立て機関の明記をしている。	家族が面会に来た時には面会記録に気が付いた事を記入して貰ったり、家族会で出された意見、要望を聞き出来る事から対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議での話し合いや会議後の振り返りの様式に記入する。業務改善提案の様式を作りいつでも意見提案できる環境を設けている。	管理者は会議や日々の業務の中で意見、要望を聞く事に努めている。外部講師を呼んで助言を受け、福祉用具を購入し職場環境の改善を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と連絡をとり環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	圏域のグループホーム連絡会での研修参加をすすめケアの質に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のグループホームで行うホーム長会議での情報交換や連絡会での研修参加をすすめケアの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の説明時に不安や、要望の確認を行い意思の確認を重ねる。また入居初期には24時間の細かな状況把握の様式で職員全体で情報交換しながら必要なケアを提供している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学や面接時の説明、これまでの人生の様子をセンター方式の様式を利用して書いて頂くほか入居初期には電話で御本人と話して頂けるよう配慮し様子をお伝えする。面会時も要望質問に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設の機能や利用の範囲の説明、地域の福祉資源を紹介。家族自身のケアのための相談先やパンフレットの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がこれまでやってきたことを把握し何が出来るかを一緒にやりながら出来ない部分のみを、さりげなく支援して出来る事を奪わない姿勢を持ち乍ら食事の盛り付けや片づけ、洗濯物等を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話での会話をすすめている。受診対応や衣替えの時期に入れ替えの声掛けや行事参加へはたらきかけを行い交流の機会を持つようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで利用していた馴染みの美容院への定期的な利用や生まれ育った所へ行ったり、同級生や親戚との電話での交流を図っている。	日頃から馴染み人や思い出の場所を聞き関係継続の支援に努めている。地元神社への初詣や生家、行きつけの美容院に行き、出会う知人や地元の人と交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って関わり合いのきっかけ作りを行う。同時に波長や肌の相性の状況を把握して摩擦を回避したり認知症状にあわせた共同作業を行う場を作り役割分担や役割意識をもって心地よい居場所と出来る様に配慮している、。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、面会にいった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向調査票への家族の記入を頂いたり日常の会話の中から把握している	毎日の生活の中での何気ない会話や、入浴時、散歩中などに思いや希望を聞いて、生活記録に書き込み職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	親族からの聞き取りやサービス関係者からの情報提供、アルバムを見ながらの会話の中から御本人に聞き取り情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	前任担当者からの情報収集と入居当初は24時間の状況把握の為に記録を職員全体で共有して記録し個別の有する能力を発揮できるように生活意欲や出来る事の継続を意識している。その後検討しながらアセスメントしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	把握した情報を職員会議での話し合い、また家族からの話やヒントを反映して担当者と現状を検討してケアの方向を共有し毎月の会議で細かな変更をしながら行っている	家族、本人の要望を聞き職員会議で情報収集をして検討し作成している。必要に応じて生活面の課題や支援の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別生活記録へ本人のつぶやきを記録し、日誌での引き継ぎ事項の伝達を行い一方で毎月の会議の際に検討事項を話あっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活の中からでた言葉を記録し把握する事で個別の外出につなげたり、している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所との交流、施設入口での畑の作物作り、共同作業で作った加工品の文化祭での販売、すいせん便りの回覧。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な月2回の往診と常時オンコール対応で連携している。主治医と本人を交えて一緒に相談し家族の判断を仰ぐときは個別にカンファレンスをしている。	定期的な訪問診療があり緊急時にも必要な情報を提供し適切な医療が受けられる様協力機関と連携している。皮膚科、整形外科等への専門医の受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろの食事や排せつの状況、バイタルサイン等の報告連絡相談。オンコール対応で連携しており体調不調時はバイタルの報告や主治医への連絡と受診の対応や判断、指示を受けてともに支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の連携室の担当相談員と連絡を随時情報交換し適宜、家族への連絡と時には施設でのカンファレンスをおこなって相談し合っている。主治医とは定期的往診時にも報告相談を行っている。現在は入院者はいない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には尊厳生の指定書や重度化の指針及び看取りの指針を説明し記入いただいている。定期的に家族に意向調査を行っている。また体調不調時には主治医、家族、医療職と相談して今後の方針等、合意形成を図る機会を設けている。	医療機関と連携し、本人、家族の希望を尊重し早い時期から話し合っている。勉強会を行って対応方法を学び、医師や看護師にいつでも相談することが出来る体制をつくり支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医と看護師とは24時間オンコールで連絡体制をとっており、指示を仰ぐことができる。心肺蘇生法や消防署に講師になって頂き応急手当の研修会を職員全員で受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員対象で年2回の避難訓練、夜間対応や地震を想定した訓練を行っている、近所の住民や駐在所に呼びかけ参加頂いた。連絡網は近隣4軒のお宅にも連絡するシステムとなっている。水害時には隣地区の事業所も避難場所として要請	夜間、地震も想定した避難訓練を行い、駐在署、地域の会社、近隣の人参加や協力を得ている。運営推進会議でも話し合い、行政と情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設理念と施設の行動指針を職員会議の時に唱和するとともに、虐待防止研修の受講とその後の伝達研修。接遇アンケートの定期的な実施を行っている	利用者を尊重した言葉使いや対応を心掛け、排泄時などプライバシーに配慮して支援することに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	身体拘束研修受講後の全職員へ伝達研修時にスピーチロックの勉強会、目線の高さを同じにし本人を尊重した声掛け開けた質問を行う		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や体操を状態に合わせて無理強いをせずに行っている。食事時間については時間の許す限り希望に沿って柔軟に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣服を職員と一緒に選んだり、すぐに取り出しやすいように季節ものの入れ替えを一緒にしている。化粧水や乳液等長年使いなれたものを切れ目が無いように配慮している。外出時はお化粧を職員が手助けをして行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備や皮むき、盛り付け配膳をできる範囲でやり方を示し乍ら一緒に行い食器拭きや茶碗洗い等できる能力に合わせてやっていただいている。また、季節の梅の仕事やおはぎづくり、畑の収穫後には、干し大根作り等を行っている	利用者の力に合わせ一緒にネギを切ったり食器拭きをしたり、季節のちまきや干し大根作り、梅漬けなど楽しんで行える様にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲や体調に合わせて量の調整や好みの物を、個別にお出しし嚥下能力に合わせてとろみ剤の使用やお粥で対応、飲み易いカップやスプーンの形状を変更したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自身で困難な方には介助し口腔内の観察、自力で可能な方についても観察し変化があった際は、歯科の往診で対応していただきその後も定期的に点検清掃をしていただいている。義歯装着の方については、毎晩洗浄剤を使用。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録や水分の摂取量の毎日の記録で個人のパターンの把握を行い、自ら発信できない方についても傾合いを見てトイレにお連れし、重度化の方についてもトイレに座って排便できる様に最低1回/日はトイレで排泄をしている。	利用者の身体状況に合わせた声かけや対応をしている。重度の人でも無理のない様に配慮し出来るだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天製品の多用(ドレッシング、寒天ゼリー、ごはん混ぜる)寒天茶を毎食後に飲み繊維質の摂取量を増やして便秘予防。周囲の環境を利用して毎日AM.PM2回の散歩と外気浴。毎日の体操に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気分が向かないときは無理強いせず、手足浴と清拭を行っている。アロマ効果のあるエッセンスオイルを使用し落ち着いた気分が入浴出来る様に配慮している。	利用者の体調やタイミングに合わせて支援している。居室に足湯バケツを持ち込み手足浴をしたり、近隣の温泉に行き違う気分でのんびり過ごせる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的な、寝具類の交換、シーツの洗濯を行い気持ちよい就寝の配慮。体調や活動によって日中に、横になって頂いて休息時間を確保するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状や状態に合わせて主治医や看護師、薬剤師へ相談しながら投薬方法や量の調整を行っている。誤薬防止のためのダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合わせた家事能力の維持のために洗濯物干しや布巾たたみ、掃除、縫い物を得意としていた方については縫い物をして頂いたり。好きなジグソーパズルを日課としていたり好きな歌を聴いたりすることを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の外気浴と散歩を支援し、馴染みの美容院への希望があり定期的にパーマに出かける支援をしている。誕生日には、馴染みの場所や好物を食べに出かけたりしている。	毎日、散歩や庭でお茶を飲んだり体操をしたり、畑で野菜の収穫をするなど、戸外での生活を大切に支援している。玄関先にはいつでも散歩出来る様に日よけの帽子を用意している。日帰り温泉や季節に合わせて花見などに出かけ楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的には、行わない。必要な時は立替払いをしている。手元に、ないことで不安になる方について少額を居室に置くことを家族と確認して精神的安定に繋がる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はその場で電話が出来る様に配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた気持ちの良い温度管理や共用空間に地元の方が届けてくださった季節の花を活けたり、カーテンや間接照明で明るさを調整できる空間づくりに配慮している。	季節を感じる花や手作りカレンダーを貼り、所々にソファを置き休憩したり新聞や雑誌が読める様に工夫した配置をしている。台所もオープンカウンターで利用者が手伝いやすい様になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事が居心地よく出来る様に相性や波長が合う方と一緒に配慮し玄関前やテレビ前、和室前等にもソファや椅子を複数箇所において、それぞれの場所を確保できるようにセミファブリックスペースを確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使っていた食器、アルバム等を持ち込んで頂いている。	使い慣れた机や椅子を置き、衣装ケース、筆筒を持ち込むなど安心して過ごせるような工夫をしている。職員は利用者が仏壇に毎日お茶やお水を供えられる様に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できない部分だけ職員が準備して危険のないように見守りを行ったり、いつでもパズルや書棚に好きな時に見る事が出来る様に新聞や書籍をおいている		